

「出会い」大事にする古本屋

「古本屋」と聞くとつい、「本についての知識がないと、門前払いされるのでは」と臆してしまう。「そんな本、うちは置いてません」なんて、店主に冷たくされたりはしないか……。敷居の高いイメージのあった古書店業界がぐっと身近に感じられる、新たなサービスが生まれつつある。本が街にあふれる時代、少しでも本と人との出会いを価値あるものにしてほしいという試みだ。

案内所で敷居を低く

世界一の古書店街と言われる東京・神保町には、約180の古書店が軒を連ねる。絶版本や作家の直筆原稿など貴重な商品が多く、「ここならあるはず」と一縷の望みを持って訪れる人も多い。だが、どの書店がどの分野に詳しいのか、知らないまま探し歩くには骨の折れる広さだ。地元的神田古書店連盟は2007年10月、神保町のほぼ中央に「本と街の案内所」を開設した。まるで大きな図書館のレファレンスカウンターのように、探している本がどの店にあるのか、スタッフがパソコンや地図を使ってガイドしてくれる。パソコンや電子書籍の端末を、利用者が自由に使うこともできる。

平日に100人、週末に250人ほどが訪れる。昭和期の映画や演劇のパンフレット、鉄道の時刻表、和本、洋書の絵本……。老若男女から多種多様な問い合わせがある。たとえば「さつき岩波ホールで映画を見て、第2次世界大戦中のイタリアで起きた『マルザポットの虐殺』という事件について知りたくなかった」という若い女性が来る。さつきスタッフが、神保町の書店サイト「BOOK TOWN」じんぼう、全国600万件以上の古書店データから検索できるサイト「日本の

レター」の柳原良平さんの直筆画を見つけたのも、ここ(案内所)のお陰だ」と話す。ただ、不満もある。「自宅などでネット検索で見つからない本も多い。行ってみると、店頭にはあったりするの」神保町には約1千万冊の古書が流通していると言われるが、ネット検索できるのは、店が目玉品にする希少な資料など、20分の1の50万冊程度しかない。国立情報研究所の研究員で連想出版スタッフの中村佳史さんは、「神保町の店主たちは、新古書店やネット市場などで簡単に手に入る『どこにでもある本』ではなく、自分が価値を認め、お客に薦めたい」とっておきの本に重心を置いていたのでは」と分析する。今秋開かれた「神田古本まつり」は今年も多くの人でにぎわった。「気まぐれ古書店紀行」「女子の古本屋」などの著書があるライターの本屋「大人の街」と指摘する。最近では、3代目、4代目の若手店主たちがテレビや雑誌の取材もファンクに応じていること、街歩きや「古書好きだけでなく、街歩き」の好きな人にも、「大人の街」として人気が高まりつつあるという。

推薦文、値段の提案も

本棚に積まれた本を手放したいけれど、売った本が二束三文の値段になってしまったり、粗末に扱われたりするとしたら、悲しすぎる。でも、新たな試みが始まっている。

れば次に手にした人にも大切に読んでもらいたい。そう悩む人のために、古本をリサイクルする仕組みでも、新たな試みが始まっている。

担当者「担当の久知敦さんは語った。『毎年大量の本が出版され、消費される時代、あえて本を大事に読むことを提案したかった。推薦文を書けるほどいい本、面白い本を集めれば、店で扱う古書全体のクオリティも高まるはずだ』(寺下真理加)など、切実な体験談もある。

古書の新しい流れ

「ガイド」にきて本を探す

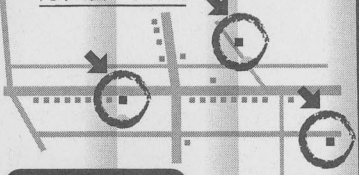
神保町のケース

70年代ロックバンドのメンバーの手記が欲しいな



本と街の案内所へ

ロックに詳しい店を選んでいって丸印で困ってくれた



ロックならこの店にいてみてください!

- ★インターネットで見つけられなかった本が手に入るかも
- ★関連する別の本も発見



「本と街の案内所」
千代田区神田神保町1-7-7
営業時間
午前11時半から午後6時まで
※日曜・祝日定休



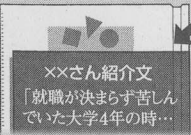
案内所で地図もゲット!
「神保町古書店マップ」163店の電話番号、定休日などを記載している

「シェア・ザ・ブック」に出品

渋谷のケース

本がたくさんあり、困っている

出品



ネットに必要な情報を入力。推薦文としてカードになって本に添えられ、店頭で並び、3カ月後、連絡がくる

- ★本が売れたら、売り上げの3割を受け取れる
- ★売れ残った本は後日持ち帰る



「ジブヤ・パブリッシング・アンド・ブックセラーズ」
渋谷区神山町17-3
営業時間
月～土曜(正午～午前0時)
日曜(正午～午後10時)

グラフィック 上村伸也 / The Asahi Shimbun